





Red square seal with Chinese characters, likely a collector's or owner's seal.



15
1270
2

人の利口最明なる人よむい
てらほをちしく
かみは無知無識乃その
一乃こを不思議一
いふいその
をぬそやまを娘一や思ふ
こら乃とせつ
愚といふやまい
てなまき悪物
聴あり明あり才一
人とすそ乃主人乃
あはれみの耳は万
事万物の

聲をきく目のかくもあはれを
そのを鼻の香臭をり
舌の口はよる味をあま
かろしよすし忘るる
あまのつまひらるる
いられぬ不思議ありこ
誰教ゆもいれはゆも人
人こして福をねらうと上
下乃口乃出入乃定まる法
天地あり日月あり四時あり
風雨霜露あり人君臣
上下あり富貴あり貧賤

ありこもいれはゆも人
こも忘れぬを忘れぬ
おのれをうけはたなまを
いさたか一人つらこ
つたいこをいさたか
分おとるありあつて
生れ死すは死し是を念を
そしむる事いれはゆも
ありこもいれはゆも
念慮あり人として
萬物乃宰としてたろと
ありこも人乃いれはゆも

教ふこと一途なり。こ乃
教ふをあらうとて敵愾ありて
世に天子乃沛あるや文宣王
尊し之徳を孔子とよむは
大聖人乃沛書をよまはる
すむことありてよこし人ある
ゆへによまはる人まで人を知る
書をよむは天理人理を能
くしるなり。これこそよめと
りしことなり。大学八條中庸

論語五経ありて各人を教ふ
人へせよ。其乃沛教たる是を
治國平天下の道を自らを
よめ。其をよむは其基なり。
君臣父子兄弟夫婦のつと
むこと。つとむこと。やめ事。
いつくしむこと。義理なり。こ
れ。其乃沛。三止。威乃思。こ
れ。威。一。其道。乃。その。つと
ま。ぬ。や。人。乃。大。に。な。る。

千古萬古變じざるべきは
聖諭を人乃傳ふを記すを
詩も文もよりの言語は
上中下乃其別なく人上ハ
父母兄弟君臣従僕と其の
道と道と一なりとつとめ
終ふ

こ乃人乃一萬事につけ
規矩乃定むる法あり
こと書ありはゆりたる

その書よは今ハそのことごと
天地の君一充滿することごと
人乃つとたるつとたる
不思議とせし智者つと
是をと思ぬ愚人ハうつと
國と君あり民あり城郭あり
邸第あり市廛あり村裡あり
山川あり田畑あり士ハ君乃令を
うけて人を治め農ハ四時乃
其軌節を考く種植をつとめ
工は人乃用はるる事乃身得

た。―あつちの器を傳へか
し商は海陸を道乃る其利なく
こころあつちの器を傳へか
たつちの器を交易し其利なく
ま―ゆきもたつちの器乃之
うゆきをとりふ東西南北の四方
中原たつちの器を傳へか
ぬの器を傳へか人乃
カ乃たつちの器を傳へか
もなつちの器を傳へか
の器を傳へか
人の伝へたつちの器を傳へか

けくあつちの器を傳へか
今派銅鐵乃此よりして人の用
とつちの器を傳へか人の教あり
四木の器粉と藤の器の器の器
四木の紙の器の器の器の器
其器の器の器の器の器の器
紙の器の器の器の器の器
ら―ゆきもたつちの器乃之
ま―ゆきもたつちの器乃之
ま―ゆきもたつちの器乃之
四木の器の器の器の器の器

宋木子公麟字伯時舒州人元祐進士為泗州錄事參軍公麟好學博雅長于詩多識奇字自夏商以來鍾鼎彝器皆能考定五次辨別欵識為考古圖朝廷得一玉璽眾莫辨公麟曰此秦璽用藍田玉非昆吾子曰不可治上嘉其識善丹青終冠世黃庭堅謂其風流不減古人弟公權公實亦舉進士有名元符間歸老居龍眠山莊號龍眠居士推禽演有龍眠經

日本にてこの人とほの繪師の
ヤシノ子なり活少くありと
元祐年中の事をうけて官職
を泗州の録事参軍なりとの
人字とゆそひらく志り風雅
うゝ詩才と長とあり奇字
とあり夏乃禹王の法より代々の
鐘鼎彝器の古文字を鑑みん
たり其そのふをありて考古
圖といふ一節の書を著^著つと
其のころ天子の御所の印
とゆゝと記し是を知るの

そとくつゝ新眠洋のりらり
こく丹もどくくしてまあせ
し舞よりいふふ新眠と信今
にいりこれうつゝ新眠
ぬ通冠せといふるのり
名うとまふ山首のり新眠の
風流は古人の減せとく新眠を
えあふふありの山は新眠
しとくつゝ新眠居を
美二人ありみるをさよ
官とくつゝ新眠はさ
とらん也日本の新眠といふ新

あゝさかしくとまらへり
ちうつゝゆり

周友丘明孔子の春秋に因り
傳をけつて世に傳と云はる
晋の杜預注を以て人つゝのり
仲子と素王と丘明と素原と
といふまこと位を友の素人
〜代々帝王此傳とてり世
不朽の天下万国の師表を
作らるる〜宋元豊三年
記て版立伯と封と

杜預は子武の名將たりと

吳魏とこ玉割橋の流を
音のより二流して大勢
をり西の礼とつり
さいさいさつり
たの力者りや
も
か

詩文章は古人の
下の廣成は
み
定その
ゆる

吾人の才
巧拙は志
理
ら
い
あ
我
さ
力
そ
な

た里字大沖位満人博言の
て洛陽の術の旨一齊に賦と
作る十二月ふして成るまこと
郭賦と詠ると十年の間あり
門庭蒲淵臨着紙筆偶得二句
即使疏入とあると考ふべし
三句は後とあると十年のり
一向いれらるゝと考ふべし
とありとあると十年のり
と籍のりつりや望とあると後
のりつりつりつりつりつり
とありつりつりつりつりつり
とありつりつりつりつりつり
とありつりつりつりつりつり

くしりし成就とくせんこの賦
日本みと傳りりま貴人の貴
詠せしる今と之選と之梁乃
昭明太子の集ありと考ふべし
あゝぬとのりつりつりつり
経つりつりつりつりつり
是を稱詠とくつりつりつり
感事とくつりつりつりつり
いふ名とくつりつりつりつり
班張之流也使讀之者盡而首
餘久而彌新於是豪貴之

家競相傳寫洛陽為之紙貴
ソハ紙賦と云ふんたけり字のひら
くをんさるるを抄くせんふあり
歎ひおめく秘書郎と云ふ
天子の書府とありつるなりその
丹波と云ふなり後示張公張曰
此二京可三然君文末重于世宜以
經高明之士思乃詢求於白王甫
秘謠謚見之歎賞遂為作序
於是先相非貳者莫不歛衽讚
述焉

法皇の御書

不もんせと云うくこら解と
と種ありと云うありそのと云
名と云ふ白王甫漢と云ふと云ふ
こと謚と云ふと云ふ歎歎して云
ふの紙乃序と云ふ是なりと云
この紙と云ふと云ふものなり
白王甫の歎賞と云ふ序と云ふ付
もいふ衽と歎く屈伏と云ふと云
陸士衡と云ふ湯と云ふり三紙賦と
擬せんといふた沖と云ふと云ふ
成と士衡と云ふと云ふと云ふと云
書とありと云ふと云ふと云ふと云
書とありと云ふと云ふと云ふと云

又欲作三絶紙頭其成以漢
酒瓶詔耳及左賦出士衛絕
嘆伏以為不徒不遂昭筆馬
士衛青の士路一書とあるは六
は活三絶の紙と所々をいふの
ありそのなるを知らざる紙
よて我酒意のやこと法んと
ふよとなすの文言不く左思紙
とありさたり。あつありり
一乃て漢漢かかきんて
うらうけついできとあり
うらうら
こねくをうらうらと名の
又才のうらうらとあり

うらうらとくさくさ紙の
名の君ありりうらうらと
清くきりひひとありと
活うじひひとをく清澄
ひのうらうらとあり

喜嘉、のうらうらとあり
わくありひひとあり
事うらうらとあり
字中ありとあり
たりやひひのうらうらとあり
のうらうらとあり
又ま或まのうらうらとあり

平治一途のの取人の
言ふをいりて氣せむ小愚
いふをいりて氣せむ小愚
我ころの心と心と心
横とまゝとほのまゝ
他とととととととと
いふととととととと
の言ふとととととと
て他のすはとととと
まゝととととととと
んくつとととととと
ことととととととと

いふ由言れと小人と持りての
いふよりいふ人のいふ事一通
曉ありた人いふ事ありあふも
心よむととととととと
我とととととととととと
日本信よといふ文紙と書きたり
おとととととととととと
人らとととととととととと
あつとととととととととと
に及らとととととととととと
この言ふ事ととととととと
とととととととととととと
らけとととととととととと

心を〜天下の清き〜
愚い百福の生じらるる〜
者よ愚を〜を清くあらん
怒る百鉄のいころと〜
〜とち〜を〜
て〜友たう〜の〜
刀も我情よの〜
ほ〜

慎れをうし〜
又ま心あはれ〜
涙の言と成心の〜
え〜

〜人のゆ〜心のま〜
〜つ〜じ〜
〜あは〜
〜と〜
〜あは〜
〜つ〜
〜

よのと穀盗してつふこのころあり
りのいふまゝはころありむつ
ふおぼろ人のころありむつ
よのころありまゝ子眷属いころ
まゝ豊りころいころあり
ころありむつけ人信と信を
賢まゝは賢者のやよはるあり
愚人は愚人の好まむころ信
ころハ信心ころむつむつころも
大概人のころありころ是人
間世界ありころむつころ
つ急の急病なりころ急なむつ
このころありころむつころあり

このころありむつころあり
おりのころありむつころあり
まゝりハ換むころありのころあり
と自然に大後子孫を人のいふ
のころありまゝ地ころありむつ
ちまゝとありありハ賢者ころあり
ころありむつころありむつ
大すくころありむつころあり
ころありむつころありあり
人の刺ふと後ころあり

生る事大やむつころありむつ
はのころありむつころあり

教号ハ李廣ウ傳ルベシ

大將軍陰受上誡以為李廣

老教奇也母令常早王三言く

李由聲度の教

離奇といや〜ハ奇音傳り

鄒陽傳輪困離奇

輪莫也又兼聲明兒

漏以表其圓固莫以表其

教明言其居室之也

傳莫間暇之意

詩大指 傳莫爾遊 美

六注以後代ハ諸名之入稱

い〜と〜と〜と〜と〜と〜と

〜と〜と〜と〜と〜と〜と

〜と〜と〜と〜と〜と〜と

唐乃韓退之柳子厚宋

歐陽永叔稷子瞻の四名

〜と〜と〜と〜と〜と〜と

〜と〜と〜と〜と〜と〜と

〜と〜と〜と〜と〜と〜と

名の於今ハ詩云〜ハ月〜

〜と〜と〜と〜と〜と〜と

〜と〜と〜と〜と〜と〜と

一生の善〜と〜と療治合

〜と〜と〜と〜と〜と〜と

くくを和人にを度く和人は
とくじりよき義通をい
まハ善うくくく巧拙は
度くくく どの汗選擇の
り信伸先生の評液より
かくの事とくく一層の中を
といすの辯ふくくく
評をくくくく定る不巧の
感事とくくくくく
く字の使みくくく磨減とく
ふとくくくく人のふくく
くくくくくくくくく
層くくくくくくくく
くくくくくくくくく

不接くくく著述とたのしき
くくくくくくくくく
韓柳歐蘇を仰範くくく
くくくくくくくくく
志と風雅くくくくく
と療治くくくくく
くくくくくくくくく
くくくくくくくくく
の樂に圖書にまらくく
くくくくくくくくく
くくくくくくくくく
くくくくくくくくく
くくくくくくくくく
くくくくくくくくく
くくくくくくくくく

清王通字仲淹號門人闢白皇
四年丁父綱川曰是子必修通
天下之志周名曰通幼為字綱川
曰尔來自天子至庶人未有不
資友及以成者也在之之義師后
一為道卷以來功廢久矣然何
常之有小子勉旃翔而後集
通於是有一方之志立業於東
海李育學詩於舍撫習夏禮
問禮於河東闢子明正樂於
北平霍汲為易於族文仲善
不辭衣者六年其精專如此
仁壽初慨然有濟蒼生之心

西遊長安奏太平十二策帝
大悅曰天生賜朕也下之策於
公鄉時太子廣有謀弒之事
通知諱不用作欵曰我遊國
家兮遠遊京畿忽為帝王
兮陪禮布衣遂懷古人之志兮
將興太平之業時異事變兮
志乘願違吁嘆道之不行兮
志乘願違皇之不與兮方乃
西苑帝園而再激之不亡祥以
疾退居河汾教授乃續詩書
正禮樂脩元經讀易道九年
而六經大就門人房玄齡等

百餘人咸以而文之佳乃往來
文業者不啻千數大業初後徵
為蜀郡司戶亦授著作佐郎國
子博士並小也一日百門人辭收滑
曰吾夢顏回稱孔子之命曰歸
休乎殆史子石亟之何必必之
吾其不起乎寢疾七日而卒
門人謚曰文中子所著禮論十卷
續書十卷元經十五卷漢易十
卷亦為中說以擬論語 弟
凝字叔恬凝子二人福郊福時
孫四人勵勵劬通文漢字中
功通大業中舉為懷慶府深校
秘書正字還鄉種桑蔣菜醴

流自洛嘗與仲長子克游北山

東白舉故著書號東白舉子

唐武德初待詔門下有宿銘洞

一斗飲至五斗不亂著五斗先生

傳及醉鄉記貞觀中撰隨書勸

唐初歲進士長壽中為鳳閣舍

人壽春等五王出閣有司已載

冊文字宰相失色勸占五吏執筆

分占其能榮然非裝行倫見之曰

於衡才也勸與兄才勸勸皆著文

息杜易簡祖之珠符其後勸劬又

以文顯勸早卒 福時子勸亦有

久福時嘗說其子韓思毅或言

武子有馬癖君在魯見癖王家
癖何多耶時使助也又思魯日
生子辰是丁亥

勃字子安六歲能文禱九歲得教
師在漢書讀之作拍板以摘其失
麟德初對策于朝授相教亦年
未及冠沛王召署府脩撰作開
館檄文高宗怒年出客劍南去
父唐勃故在遷文正令勃往省
嘗舟次馬常見水府之君曰常
助德風一悅次日至南昌九月九日
勃歸周公大會客於滕王閣勃
年廿一周府末嗣宿命之婿

吳子章作滕王閣序以流宕
出紙筆過流筆致當者勃文
而不祥圖道史何去文以報
之必落為與孤驚齊飛彼乃
共長天一色閣乃明隻然曰天才
也清遊成文極欽而落與扁
照漢路實王楊桐齊名號曰
傑勃為文磨墨數珠研飲
川波廣而外乃瘡校筆成
篇不易一字時謂板福語為
文者日忘意帛豈積人謂
勃心藏筆耕浚浚海瀛水

元時辛二十九有集二十卷
行于世初字天懋勅太子弟
撰隋書八十卷

表の事一今一にを月とらハ
唐乃開え通寔とらわし
唐歷代四と辛號あつと
まり罪えとい辛号と
あまこと罪え通寔ハその
辛號の前より表のころ
とらわらるえよりえら
くらめたりとらと罪と
いふころと罪えを字と

いそ通鑑よりと表とら
せし一鉄ハと十鉄ハ拾々
百鉄名百々十百々そ書月

今より十百をそ表とらと
いふととら布表とら
み鉄とらとらあのみと
とらとらとら日ハ和銅珍用
とらとらとらとらとら
とらとらとらとらとら
とらとらとらとらとら
とらとらとらとらとら
とらとらとらとらとら

義法いつても名家のまゝ
白王宋通寶 元祐通寶
又換せし珠のまゝ

政和通寶 元豐通寶
熙元通寶 景元祐寶

永樂通寶

^唐王珪字叔玠祁縣人太宗時為諫
議大夫忠直敢言上嘗謂卿鑒
識精通後善談論玄齡以下卿宣
采悉加品藻自謂與數子何如對曰
孜孜奉報國知無不言臣不如房玄
齡才兼文武出將入相臣不如李靖
敷奏詳明出納惟允臣不如溫
彥博處煩治劇衆務畢舉臣不

如戴胃耻君不如堯舜以諫諍為
己任臣不如魏徵至于激濁揚清
臣于數子亦有徵長當時以為
確論子敬尚南平公主先是
公主下嫁皆不以嬪禮事舅
姑珪曰主上欽明勤循禮法吾
受公主謁見豈為身榮所
以成國家之美耳乃與妻就
席令公主行禮

唐太宗乃約是縉紳のこゝろ
王珪の事をいふ
記ししるをり諫議をいふ
その人志也敢言この四字人信

いづれかの正氣純一奉つて
いふ郷登瀛精進もくく法
論六の登瀛精進人くく申
くくくくくくくくその登瀛
美事申す福をみる同僚の法は
人品と回ひあひこの人の評を
聞あふくくくくく房玄鑑下
盡くく不潔とくくくくく
房玄鑑ハ終くとけくくく
く奉く字語ハ又武の才とく
江彦博ハ又美道朋くくく納
初かー裁胃ハ煩く處く劇
おくくく務くくくくく

くくくくこの人くく奉く純徴ハ君
の克舜くくくくくを恥くくく
誦れあくくくくくを何くく
つり志くくくくくくくく
激し活くくくくくくく
ゆくくくくくくくくく
履論ありくく

